

池などに繁殖の「ナガエツルノゲイトウ」は農業を妨害する相当な難物

新聞の写真は印象的だ。播磨地方では最近よく見られる光景であるが、池の周りを新興住宅街が取り囲む。多くの池ではその池それぞれの植生がみられるが、この池では外来種が勝利したようだ。寛政は 1789 年から 1801 年までの期間を指す。

ナガエツルノゲイトウ (Wikipedia)

多年草の一種。南アメリカ原産で、世界中に外来種として定着している。高さ 0.5-1.0m 以上で、太さ 4mm ほどの茎は中空となる。葉は対生で、わずかに細かい毛のような鋸歯が確認できる。花期は 4-10 月で、白色の花を咲かせる。

日本での最初の定着記録は、1989 年の兵庫県尼崎市のものである。観賞用の水草として流通していた本種は、本州以南の千葉県、茨城県、神奈川県、静岡県、滋賀県、京都府、奈良県、大阪府、兵庫県、徳島県、香川県、島根県、福岡県、佐賀県、熊本県、鹿児島県、沖縄県といった広い範囲に分布が拡大している。

在来種の植物と競争するほか、水面上にマット状に繁茂することで水流を停滞させたり、船の通行を妨げたりする。そのため、世界中で侵略的な雑草となっている。日本では外来生物法により特定外来生物に指定されている。

神戸新聞 2020.7.12

明石市などのため池で、特定外来生物の水草「ナガエツルノゲイトウ」が増殖し、ため池の管理者や環境保護に取り組む住民が警戒を強めている。在来種の生態系や水田の管理に悪影響を与えかねないといい、同市大久保町西島の寛政池では、地元住民らが駆除作業に乗り出した。(小西隆久)

特定外来生物の水草「ナガエツルノゲイトウ」 住民ら手作業で取り除く 25人が参加し半日かかり

東播磨県民局によると、ナガエツルノゲイトウは南アメリカ原産。環境省が 2005年、特定外来生物に指定した。切れた茎からも増殖し、池の全面を覆ってしまうほどの強い生命力を持つのが特徴。絶滅の危険が増している水草アサザなどの生育を脅かす。増殖したナガエツルノゲイトウが用水路に詰まるなど、水田管理の面で被害の深刻さも増しているという。

18年秋、稲美町六分一のため池「天満大池」水系の3池で初めて繁殖を確認。今年3月には、明石市の寛政池でも見つかった。河川を通じて神戸市などから流入したとみられる。地元などでは防護ネットを張るなどの対策を採ったが、その後も増え続けていた。

寛政池の駆除作業には、兵庫・水辺ネットワークのメンバーや地元の水利組合などの計25人が参



特定外来生物に指定されている「ナガエツルノゲイトウ」

3月に繁殖見つかった大久保町西島・寛政池

加。半日がかかりでナガエツルノゲイトウやオオフサモといった外来生物を手作業で取り除いた。今後も繁殖しないよう注意深く見守る傍ら、ほかのため池でも観察を続け、繁殖の食い止めを図っていくという。



「寛政池で増殖した特定外来生物を駆除する住民ら」いずれも明石市大久保町西島・兵庫・水辺ネットワーク提供